

ミニマルの美学賞 (分野別特別賞)

タイトル 一枚天井でつながる、小さくて広いイエ。<50㎡5人暮らし>

所有・建方形式 持家共同建

設計会社 sasatt design office

構造 鉄筋コンクリート造

施工会社 (株)水雅

リフォーム前後の写真



A 最上階角部屋であり、天井・壁からの暑さ・寒さが大問題だった。

① Room2,3は必要最小限の寸法。整理整頓が習慣化、いつでもキレイ。

② 戸を開けると外の景色へと繋がる。ハンガードアなので、床が連続する。

③ 物置だった出窓は、幅広な窓枠で、景色の良いテレワークスペースに。

④ 一枚天井とのスキマは収納空間。ハンガーも吊らせて室内干しも便利。

⑤ 窓に向かった明るいキッチン。見える棚は収納力があり、使い勝手も良い。ROOM4の増設を踏まえ、キッチンの奥行きは最小限だが、横幅は広々。

B 子供たちが成長、テレワークも増え家族の居場所が不足していた。

⑥ 天井から450mmの範囲は余白とした。玄関高さも低く抑え、奥行感を獲得。玄関底の上は、貴重な収納空間。白壁の裏に冷蔵庫などを隠している。

⑦ 一枚天井には照明など何もつけない。高性能断熱ボード直貼で天井高確保。北側だが、空間全体が明るく風が良く通る。断熱性能も格段に向上した。

⑧ ROOM1は、収納下が布団スペース。家族全員分の布団が納まる設計。

⑨ 玄関はミニマム。段差を活用し床下収納。引戸で視線制御、ドア開放で自然換気。

C すべての部屋が雑然とし、そこかしこモノがあふれ出ていた。

⑩ 浴室は、梁型を下がり天井とした。デッドスペース排除、収納空間を獲得。

⑪ 右手鏡は再利用。空間が広く見える。仕切壁でリビングからの視線を制御。

⑫ 模型ステディにより、ボリュームを把握。収納容量・動作寸法など徹底調査。

⑬ 11mの左官壁がこの家の大黒柱。飾るライフスタイルのため骨格はシンプルに。

リフォームの動機 / 設計・施工の工夫点 / 施主の感想・満足度 / 住宅の価値を向上させた内容など

動機:50㎡の小さな家に5人家族が豊かに暮らすことは可能か?愛着あるこの家に住み続けたいが、部屋数・収納不足、暑い寒い、設備老朽、窮屈感など課題が山積。子育て、老後、生活圏、家賃などを勘案した結果、「リフォームが最適解。チャレンジしよう!」と決断した。

工夫:この家の大きな特徴は 11.5m×3.6mの「一枚天井」である。断熱ボード直貼りとすることで、環境性能と天井高の獲得を両立し、天井付近はモノを設置しない余白空間として、広さ感を出した。天井配管から床下・壁配管とすることで、このプランを実現した。浴室

のデッドスペースを排除、玄関・廊下などを徹底的に合理化し、各室面積を既存同等としつつRoom3と収納空間を生み出した。

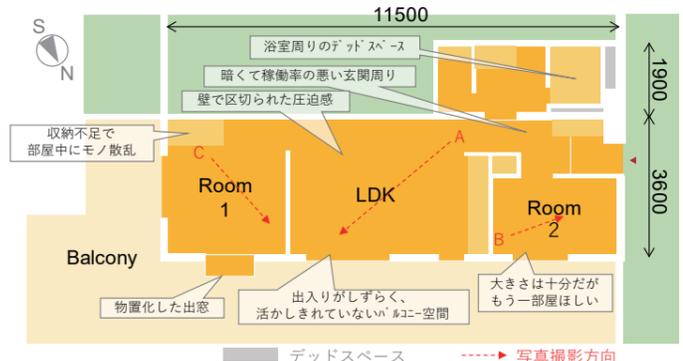
価値:リフォームにより、有効床と家族の居場所が増えた。出窓のテレワークスペース、ベランダと子ども室を繋ぐサンルーム空間など、コンパクトながら「広いイエ」となった。家族の変化にも対応できる。

感想:綿密な調査のうえ設計をしたため、リフォーム完了から1年半とても快適に暮らせている。家で過ごす時間が増えたこと、友達親戚を招く機会が増えたことは、この家への満足の表れである。

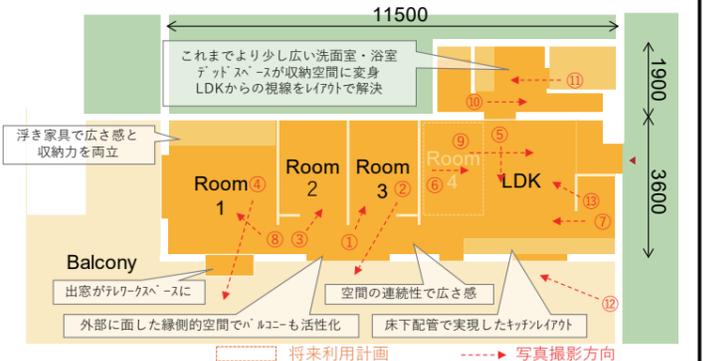
性能向上の特性	特に配慮した事項	Iw値、Is値
機能充実 (2LDK⇒3LDK、テレワーク対応) 温熱性能 (東京都世帯上位4%水準)	動作寸法・収納容量など生活を綿密に調査し徹底的に合理化。空間を使い尽くし必要な室と多様な居場所を創出。直貼断熱の一枚天井が小さな家に機能充実と広さ感を実現した。	リフォーム前 リフォーム後

データ	
所在地 東京都豊島区	新築竣工年 1986年 築後年数 36年 施工期間 90日間
該当工事床面積 50.33㎡ / 総工事床面積 50.33㎡	該当部分工事費 1,500万円 / 総工事費 1,500万円
居住者構成 65歳以上: 人 / 40~64歳: 2人 / 15~39歳: 1人 / 14歳以下: 2人 / ペット 匹	

リフォーム前の平面図



リフォーム後の平面図



Before → Solution → After

課題①=個室・居場所が不足 → 低稼働率空間を合理化 ⇒ 各室同等面積で2LDK⇒3LDKを実現。4DKも対応可。

課題②=夏暑く・冬寒い → 天井・壁をすっぽり断熱強化 ⇒ 温熱環境が大幅改善。全体に自然光と風がいきわたる。

課題③=狭い → 一枚天井/床壁コントロールで広さ感を最大化 ⇒ 視線・空間のつながりで面積以上の広さ。満足度UP。

リフォーム部位: ■居室/ ■台所/ ■浴室/ ■便所/ ■洗面所/ ■廊下/ □階段/ ■玄関/ □クローゼット/ □マシヨ共用部分/ ■その他

講評

専有面積50㎡で、5人家族が快適に暮らせるのか？この難解な問いに見事に答えた住宅である。標準的な間取り・設備・仕様ではほぼ不可能、精密に計画したリフォームだからこそ実現した暮らしである。

子どもが3人に増え、また体も大きくなり、手狭になってきた約10年前に購入したマンションからの近隣への住み替えを検討した。が、周辺相場は高く、予算内で十分な広さを得られる物件はなかった。そんな折、このマンションの隣地に当面の間は建物が建たなさそうな感触が見えてきたため、住み替えるのではなくリノベーションする方針になった。

夫は設計技術者であり、また学生時代から茶室をはじめ、狭い空間に魅力を感じていたことから、狭くてもプランニングや暮らし方の工夫で、快適に暮らせることを実践しよう一念発起。家族にイメージしてもらいやすくするために、模型も制作した。

まず自宅にある家具やモノをリストアップ。しばらく使っていないもの、書籍、CDなどは思い切って捨てた。残すものは、すべて幅・高さ・奥行きを計測して表に一覧化し、それらの配置を詳細検討した。家具や家電の大きさにも驚いた。テレビは20インチ台。掃除機、冷蔵庫、洗濯機、そしてソファも2人用家族のサイズ。置いてある家具や家電が小さいことも空間を広く感じさせる。

その空間をどう広く感じるかの落とし込みは秀逸だ。白やグレーを

基調とした広さを感じる色を採用。壁の繋がりが視線上切れないように、また間仕切り壁の高さも天井の手前で止め、空間を残し、天井の連続性が感じられる設計に。見学時に到底50㎡とは思えない広さを感じることができた。また収納についても閉じる収納は寝室のみ、残りは見せる棚収納。また収納量も壁や窓を隠しすぎない程度のボリュームに抑えることで圧迫感がない。広さを感じるにはインテリアも含めた総合的な視点が重要であることを改めて感じた。

また性能向上にも意欲的だ。天井にフェノールフォーム、壁にグラスウールを付加し、内窓を設置して断熱改修を行っている。当住戸は最上階だが夏の屋上からの熱の侵入抑止、また床暖房を追加し、冬の底冷え抑止にも配慮。エアコン3台を設置していたが、天井を続き一体としたことで、ほぼ1台で夜は過ごせるようになったという。

狭さの美学を追求し、広さを感じる細部の工夫を施した50㎡住まい空間は、実はその外周に40㎡のルーフバルコニーがある。そこにはオリーブやハーブが植えられ、この庭空間が一段と広さを感じさせる。窓や居室の壁と天井との垂直空間に、小箱を置いたり、壁面を覆わない棚に食器や小物をおいてインテリアとして楽しんでいる。居心地の良い、小さなレストランや喫茶店のイメージだ。狭さゆえにお子さんに整理整頓が身についた副次的効果もあったという。神は細部に宿る。その言葉を体現したミニマルハウスである。以上のことからミニマルの美学賞として評価した。